

平成23年度上期の
生乳及び牛乳乳製品の需給見通しについて

平成23年7月8日
需給取引専門部会
社団法人 日本酪農乳業協会

1. 地域別の生乳生産量の動向

【北海道】

・第1四半期 987千トン（前年実績対比98.3%、以降同じ）、第2四半期 984千トン（99.8%）で、上期合計 1,971千トン（99.0%）と見通される。

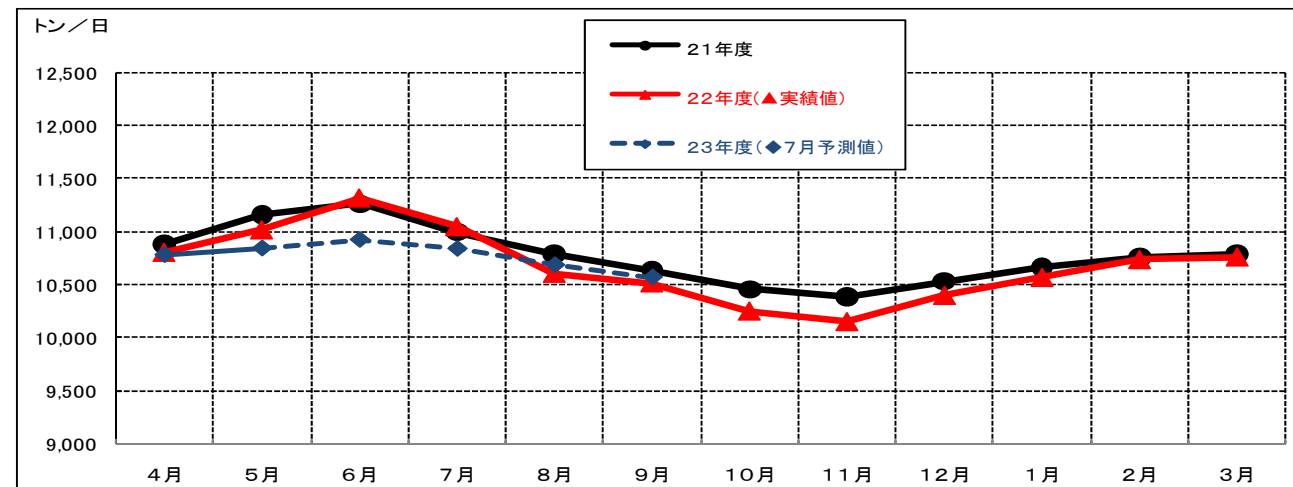
【都府県】

・第1四半期 934千トン（92.9%）、第2四半期 864千トン（94.7%）で、上期合計1,798千トン（93.7%）と見通される。

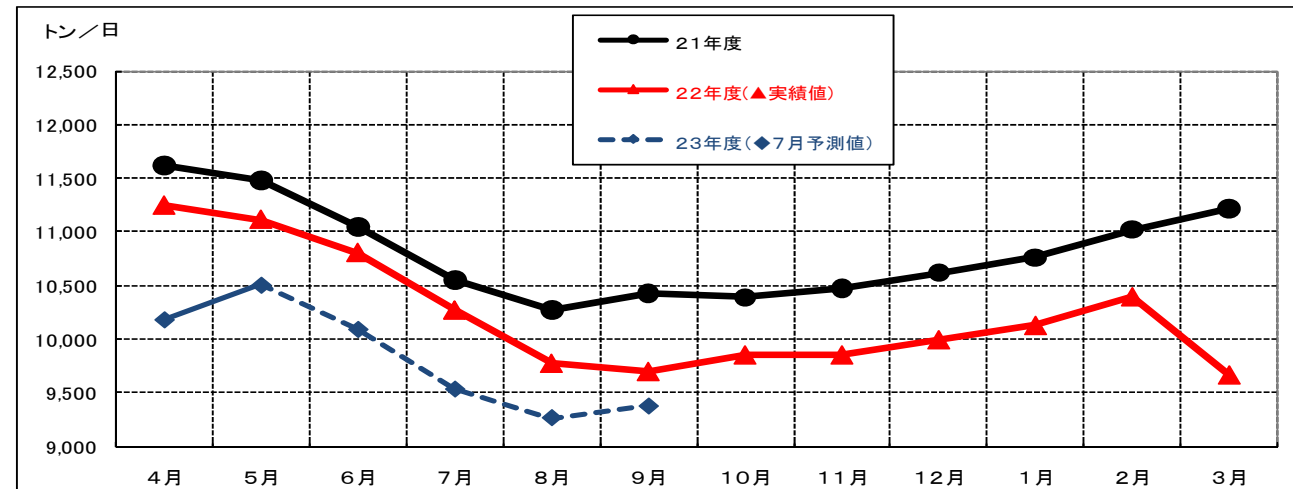
【全国】

・全国トータルの生乳生産量は、第1四半期 1,921千トン（95.6%）、第2四半期 1,848千トン（97.3%）で、上期合計 3,769千トン（96.4%）と見通される。

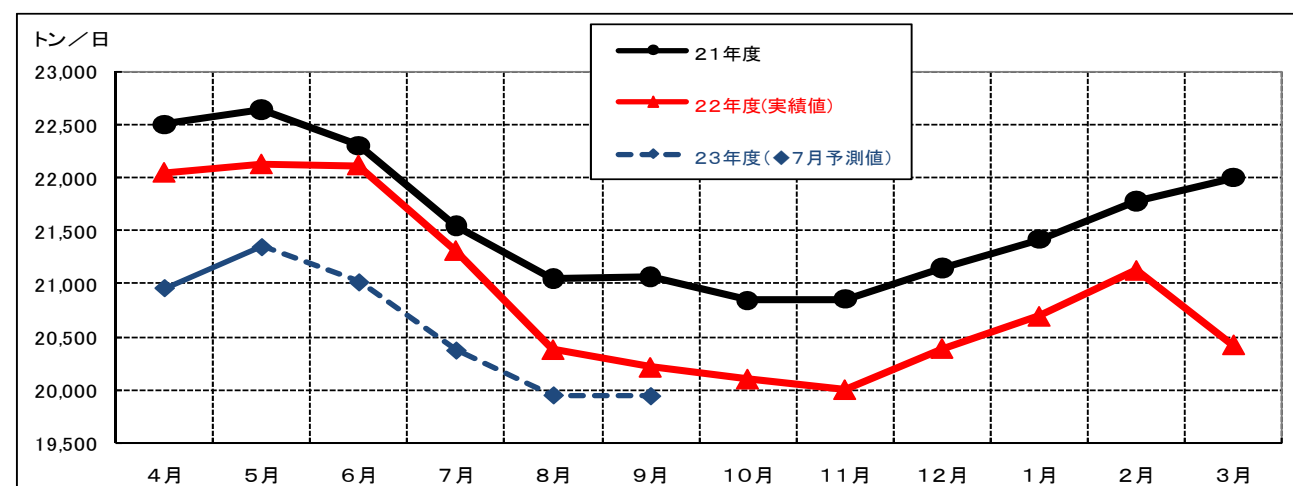
グラフ1-1：北海道の生産量(日均量)



グラフ1-2：都府県の生産量(日均量)



グラフ1-3：全国の生産量(日均量)



【生乳生産量予測の前提】

・生乳生産は震災等の影響で廃棄、出荷停止が発生しており、一旦その影響を排除した上で、平成23年度の生乳生産量を予測モデルで算出した。更に、それを基に震災等の影響、直近の動向を考慮し、東北地域他の値を修正した。
 ・なお、実績値が判明したものは予測値を実績値に置き換えている。

表1：平成23年度上期 地域別生乳生産量の見通し

	全 国		北海道		都府県	
		前年比		前年比		前年比
4月	629	95.1%	323	99.8%	305	90.6%
5月	662	96.5%	336	98.5%	326	94.6%
6月	630	95.0%	328	96.6%	303	93.4%
7月	632	95.6%	336	98.2%	296	92.8%
8月	618	97.9%	331	100.7%	287	94.8%
9月	598	98.6%	317	100.5%	281	96.6%
第1四半期	1,921	95.6%	987	98.3%	934	92.9%
第2四半期	1,848	97.3%	984	99.8%	864	94.7%
上期合計	3,769	96.4%	1,971	99.0%	1,798	93.7%

2. 牛乳等生産量の動向

【牛乳類・牛乳・加工乳・成分調整牛乳・乳飲料】

・第1四半期 1,262千kl (100.3%)、第2四半期 1,293千kl (98.5%) で、上期合計 2,555千kl (99.4%) と見通される。

【牛乳】

・第1四半期 794千kl (101.8%)、第2四半期 784千kl (100.4%) で、上期合計 1,578千kl (101.1%) と見通される。

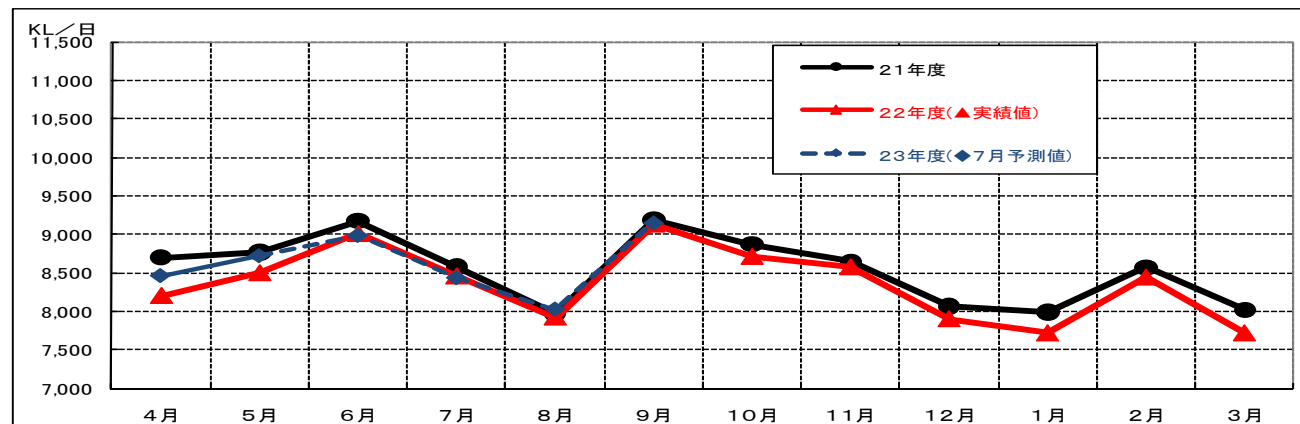
【加工乳・成分調整牛乳・乳飲料】

・第1四半期 468千kl (97.7%)、第2四半期 509千kl (95.8%) で、上期合計 977千kl (96.7%) と見通される。

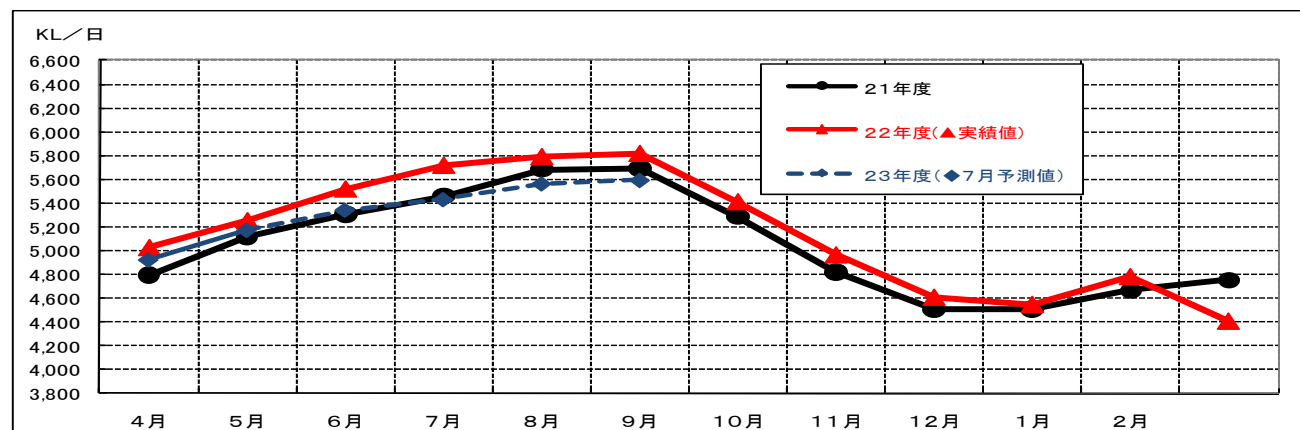
【はっ酵乳】

・第1四半期 215千kl (94.1%)、第2四半期 215千kl (98.0%) で、上期合計 430千kl (96.0%) と見通される。

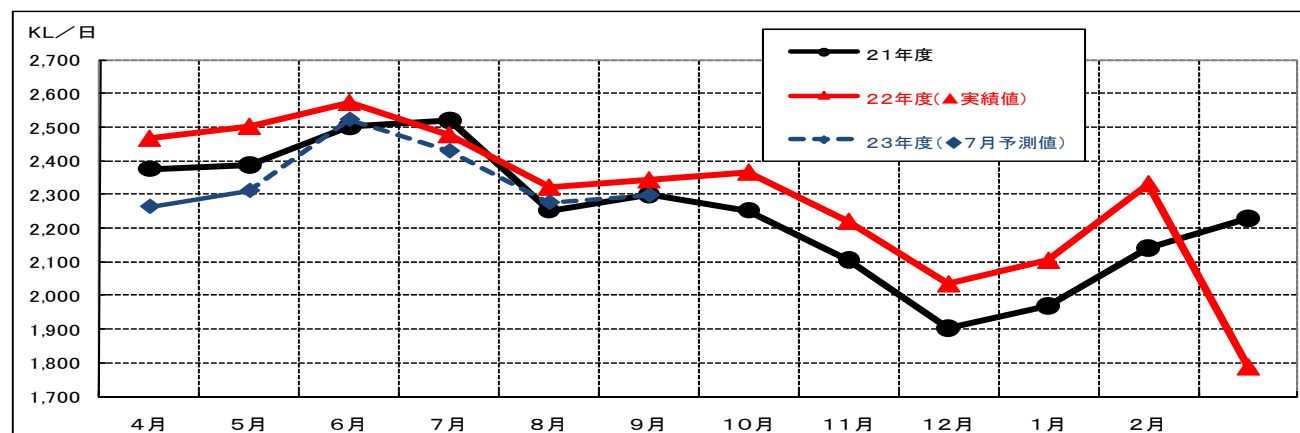
グラフ2-1：牛乳の生産量(日均量)



グラフ2-2：加工乳・成分調整牛乳・乳飲料の生産量(日均量)



グラフ2-3：はっ酵乳の生産量(日均量)



【牛乳等生産量予測の前提】

・牛乳等生産量は震災等により平成23年3、4月に牛乳等需要に影響があったとし、平成23年2月までの実績値と5月の実績値にて予測モデルで予測した。更に直近の動向を考慮し、修正を加えた。

・なお、予測値で実績が判明したものは実績値に置き換えている。

・牛乳は、「学乳」「業務用牛乳」「業務用・学乳以外の牛乳」を別々に予測した値の総量。

・「加工乳・成分調整牛乳・乳飲料」は、「加工乳・成分調整牛乳」と「乳飲料」に区分して予測した値の総量。

表2：平成23年度上期 牛乳等生産量の見通し

	牛乳類						はっ酵乳	
	牛乳		加工乳・成分調整牛乳・乳飲料		はっ酵乳			
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	
4月	401	101.2%	254	103.2%	148	97.9%	68	91.7%
5月	431	101.0%	270	102.6%	160	98.5%	72	92.3%
6月	430	98.7%	270	99.8%	160	96.8%	76	98.0%
7月	430	97.8%	261	99.7%	168	95.0%	75	98.0%
8月	421	99.1%	249	101.3%	173	96.2%	71	98.0%
9月	442	98.6%	274	100.2%	168	96.2%	69	98.0%
第1四半期	1,262	100.3%	794	101.8%	468	97.7%	215	94.1%
第2四半期	1,293	98.5%	784	100.4%	509	95.8%	215	98.0%
上期合計	2,555	99.4%	1,578	101.1%	977	96.7%	430	96.0%

3. 用途別処理量の動向

【生乳供給量】

・第1四半期 1,905千トン(95.6%)、第2四半期 1,830千トン(97.3%)で、上期合計 3,735千トン(96.4%)と見通される。

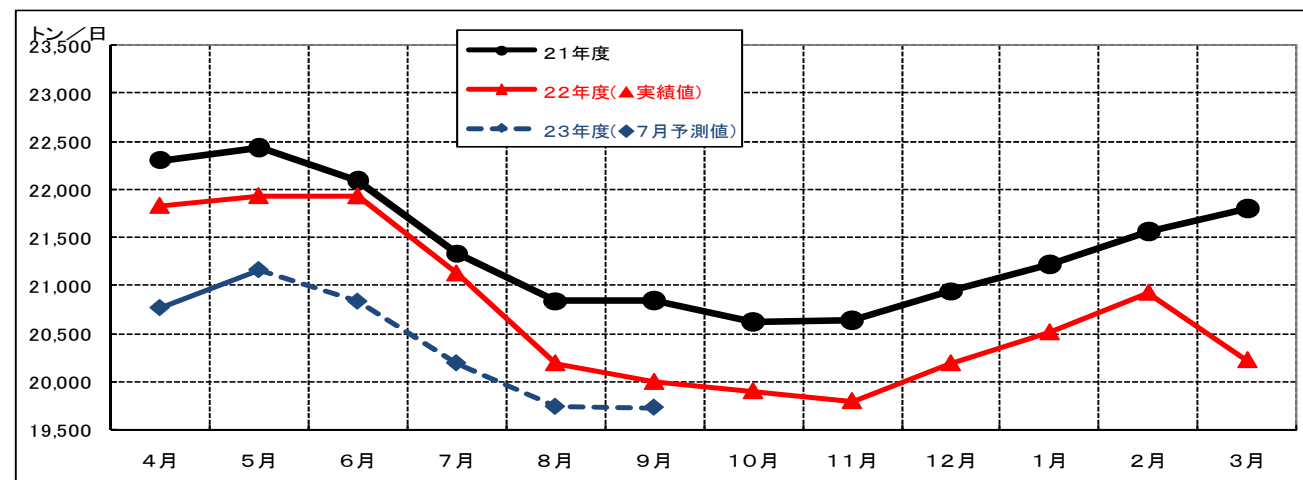
【牛乳等向生乳処理量】

・第1四半期 1,053千トン(99.7%)、第2四半期 1,065千トン(98.7%)で、上期合計 2,118千トン(99.2%)と見通される。

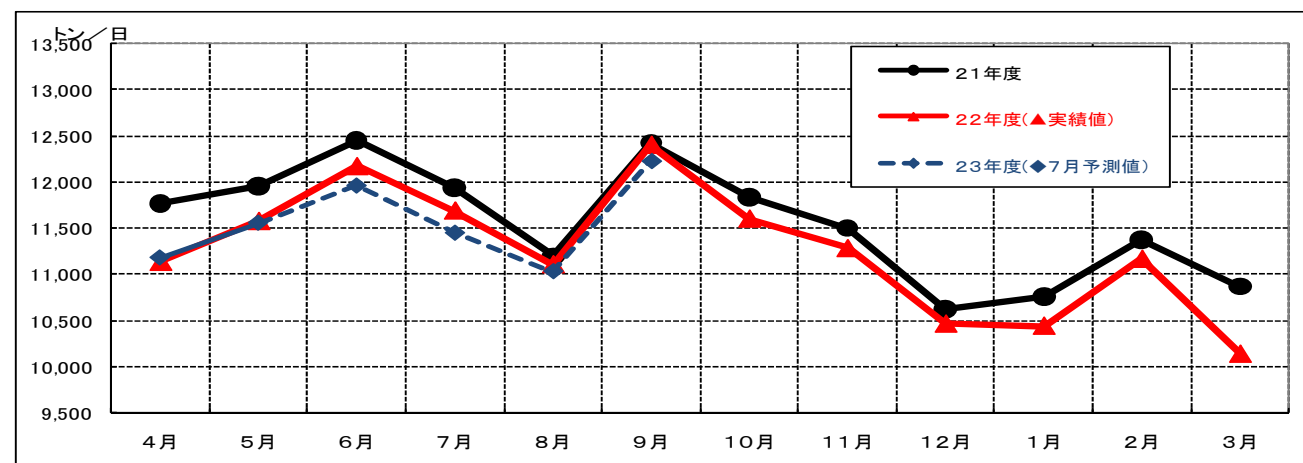
【乳製品向生乳処理量】

・第1四半期 851千トン(91.0%)、第2四半期 766千トン(95.5%)で、上期合計 1,617千トン(93.1%)と見通される。

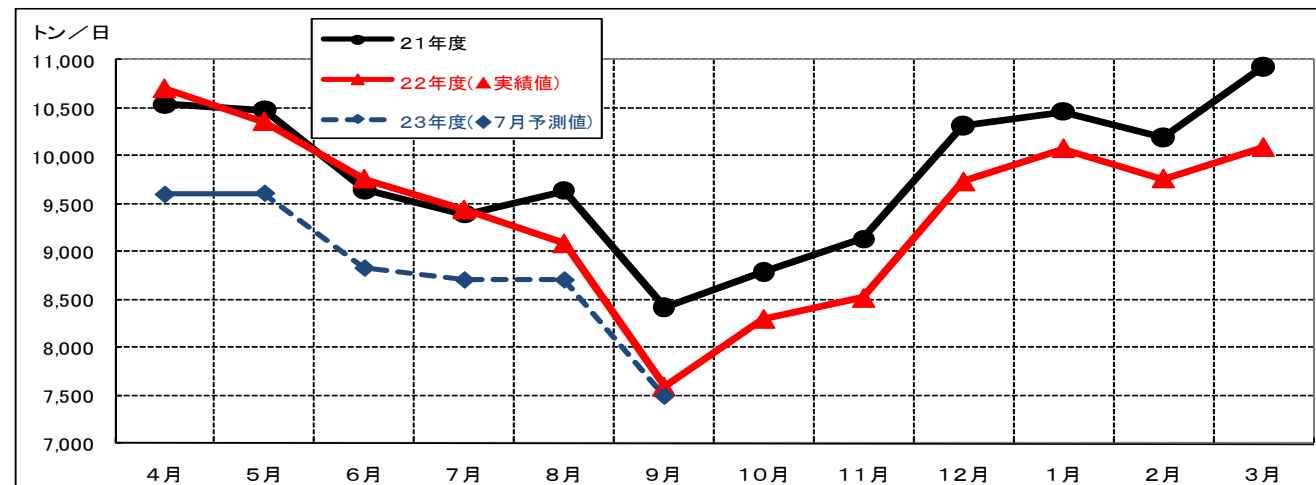
グラフ3-1：生乳供給量（全国・日均量）



グラフ3-2：牛乳等向生乳処理量（日均量）



グラフ3-3：乳製品向生乳処理量（日均量）



【用途別処理量予測の前提】

- ・生乳供給量は、生乳生産量から自家消費を差し引いて算出(自家消費は、各地域の過去3年の伸び率を勘案して算出)。
- ・牛乳等向処理量は、牛乳、加工乳・成分調整牛乳、乳飲料、はっ酵乳の予測生産量を元に、生乳使用率、比重(1.032)及び歩留まり(99.5%)を勘案して算出。
- ・乳製品向処理量は、生乳供給量と牛乳等向処理量の差。

表3：平成23年度上期 生乳生産量及び用途別処理量の見通し

	生乳生産量		自家消費量	生乳供給量		牛乳等向		乳製品向		
		前年比			前年比		前年比		前年比	
4月	629	95.1%	5	92.2%	623	95.1%	335	100.6%	288	89.5%
5月	662	96.5%	5	92.3%	656	96.5%	358	100.0%	298	92.7%
6月	630	95.0%	6	97.2%	625	95.0%	359	98.5%	265	90.7%
7月	632	95.6%	6	98.8%	626	95.6%	355	98.1%	270	92.5%
8月	618	97.9%	6	96.8%	612	97.9%	342	99.3%	270	96.1%
9月	598	98.6%	6	96.9%	592	98.7%	367	98.7%	225	98.6%
第1四半期	1,921	95.6%	17	93.9%	1,905	95.6%	1,053	99.7%	851	91.0%
第2四半期	1,848	97.3%	18	97.5%	1,830	97.3%	1,065	98.7%	766	95.5%
上期合計	3,769	96.4%	34	95.7%	3,735	96.4%	2,118	99.2%	1,617	93.1%

4. 都府県需給の見通し

【都府県の生乳需給見通し】

- ・都府県における北海道からの搬入必要量（需要量）は前年度を上回り、今後も前年度を上回って推移すると見込まれる。
- ・都府県における特定乳製品向処理量は、前年度を下回って推移している。現状の基調で推移すると、今後も前年度を下回る水準で推移すると見込まれる。

表4：平成23年度上期 都府県の生乳需給の見通し

千トン

	生乳供給量 A		牛乳等向 B		その他乳製品向 C		A-B-C	移入量 (必要量)		特定乳製品向	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比		前年比	前年比		
4月	303	90.6%	293	99.1%	14	99.5%	-4	26	124.9%	22	48.6%
5月	323	94.8%	313	98.3%	15	110.6%	-5	28	116.5%	23	70.4%
6月	300	93.4%	314	96.6%	13	100.0%	-28	37	111.2%	9	59.2%
7月	292	92.8%	309	96.3%	14	100.0%	-31	45	112.5%	14	70.9%
8月	284	94.8%	296	97.7%	15	100.0%	-27	43	109.3%	17	77.5%
9月	278	96.7%	320	97.7%	13	100.0%	-55	62	102.9%	7	96.9%
第1四半期	925	92.9%	921	98.0%	42	103.3%	-37	92	116.5%	55	58.1%
第2四半期	854	94.7%	924	97.2%	42	100.0%	-112	150	107.5%	38	77.7%
上期合計	1,779	93.8%	1,845	97.6%	84	101.6%	-149	242	110.7%	93	64.8%

5. 生乳及び牛乳乳製品需給をめぐる情勢について

【生乳の生産及び供給】

- 生乳生産は、昨年度の宮崎における口蹄疫発生や猛暑が残した影響が今年度にも引き続き影響を与えていることに加え、3月の東日本大震災による生乳生産基盤への直接の影響、その後の原発事故の影響による一部地域の生乳出荷停止などにより、昨年度に比べ減少が続いている。
- こうした中、当面する生乳供給は前年度を下回って推移するが、前回5月時点の見通しに比べ都府県においてはやや増加、一方北海道においてはやや減少し、全国合計ではほぼ同水準で推移すると予測される。

【牛乳乳製品及び生乳の需要】

- 牛乳乳製品の需要動向については、短期的には震災直後の牛乳乳製品のサプライチェーンの混乱により特異な様相を呈したが、現時点ではほぼ落ち着きを取り戻しており、牛乳類については、ほぼ前年度並みの水準と予測される。
- しかしながら、わが国経済は円高基調やデフレ経済が続いていることに加え、東日本大震災直後は消費者行動に大きな影響があったと推察される上、今後は節電が予定されており、生産・流通・消費への影響は依然不透明である。また、夏場の気温により需要が大きく左右されることも考慮し、引き続き動向を注視していく必要がある。

【生乳の需給】

- 以上の状況と本見通し策定の前提に立てば、当面する都府県の生乳需給は、前回5月時点の見通しとほぼ同様の状況で、供給が需要を下回る傾向が続くと想定される。
- したがって、牛乳等向の需給については、北海道からの生乳搬入の必要量が前回5月時点の見通しと同様に、例年以上に増加して推移するものと予想される。
- その結果、乳製品向生乳処理量は、前年度を下回った水準で推移すると予測される。

【酪農乳業の課題と対応】

1. 牛乳類の最需要期における的確な対応

生産者においては、生乳生産基盤の回復を図るべく適切な飼養管理、特に夏場の暑熱対策を徹底し、乳業者においては牛乳乳製品の需給動向を注視しつつ、計画的かつ節電の影響や気温の変化などにも機敏に対応した牛乳乳製品生産に努めることが必要である。

また、北海道からの生乳移入については、過剰なオーダー等による混乱が生じることのないよう、関係者は十分な協議を行い、計画的な供給及び配乳の対応を行うことが必要である。

2. 牛乳乳製品のサプライチェーン全体での取り組み

現在の見通しでは、上半期は基本的には需要が供給を上回る状況であり、逐次正確な情報収集と共有化に努め、牛乳乳製品のサプライチェーン全体で変化に機敏な対応が取れるよう準備する必要がある。

今後の節電対応についても計画的な生産体制により影響を最小限にすべく努めていくが、流通・消費へ与える影響は依然不透明であり、業界全体で対策に万全を期すことが必要である。

以上